

総合計画体系	政策No. 1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	総務部 防災危機管理室
	施策No. 3	施策名	安全・安心なまちづくり	施策主管課長名	今村 繁樹
施策関連課名		総務課、みんなでまちづくり推進課、消防本部(管理課、消防課、予防課、指令課)			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない																		
市民 自治会(自主防災会)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>人口</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>自治会数</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>自主防災会数</td> <td>団体</td> </tr> </table>	名称		単位	A	人口	人	B	自治会数	団体	C	自主防災会数	団体						
名称		単位																	
A	人口	人																	
B	自治会数	団体																	
C	自主防災会数	団体																	
② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない																		
被害や事故に遭わなくなる。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>総合防災訓練参加者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>消防団員数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>防犯対策に満足していると回答した市民の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>子どもと高齢者の交通事故件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>消費者相談及び研修会の開催回数</td> <td>回</td> </tr> </table>	名称		単位	A	総合防災訓練参加者数	人	B	消防団員数	人	C	防犯対策に満足していると回答した市民の割合	%	D	子どもと高齢者の交通事故件数	件	E	消費者相談及び研修会の開催回数	回
名称		単位																	
A	総合防災訓練参加者数	人																	
B	消防団員数	人																	
C	防犯対策に満足していると回答した市民の割合	%																	
D	子どもと高齢者の交通事故件数	件																	
E	消費者相談及び研修会の開催回数	回																	
<p>・まちづくり指標設定の考え方(理由、数式も)</p> <p>・まちづくり指標の測定規格(手段はアンケートか、統計か)</p>	<p>A: 市民の防災意識向上の成果を示す。【「南アルプス市総合防災訓練」の参加者数】</p> <p>B: 地域消防力強化の成果を示す。【南アルプス市消防団の団員数】</p> <p>C: 防犯対策に関する市民の評価を示す。【市民アンケートの「街路灯や防犯灯の設置、青色パトローカーの巡回など防犯対策について満足していますか?」において「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合】</p> <p>D: 交通安全対策の効果を示す。【山梨県警察本部発行の交通事故統計からの件数】</p> <p>E: 消費者保護の啓発状況を示す。【みんなでまちづくり推進課の消費生活相談員による相談96回/年(=週2回×4回/月×12ヶ月)と地域での研修会(出前講座)の年間実施回数】</p>																		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A 人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
		実績値	72,963	72,715	72,305				
	B 団体	見込み値		109	104	100	100	100	100
		実績値	114	104	88				
	C 団体	見込み値		128	128	128	128	128	128
		実績値	128	127	127				
まちづくり指標	A 人	目標値	24,000	26,500	27,000	27,500	28,000	28,500	29,000
		実績値	26,304	25,768	25,667				
	B 人	目標値		未設定	746	752	758	764	770
		実績値		740	731	730			
	C %	目標値		未設定	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
		実績値		50.4	42.7	42.8			
	D 件	目標値	未設定	未設定	143	141	139	137	135
		実績値	149	126	90				
	E 回	目標値	未設定	未設定	102	104	106	108	110
		実績値	101	105	115				
関連事業本数			92	90	93	87			
関連事業予算額(単位:千円)			362,041	437,155	690,883	403,335	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		0	0	0	0			
	県支出金		932	3,276	745	1,315			
	地方債		63,600	93,800	343,300	92,900			
	その他		24,208	23,941	32,346	19,940			
	一般財源		268,301	316,138	314,492	289,180			

目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)

A: 平成25年の参加者(26,304人)をもとに、年間約500人の増加を目指し目標値を設定する。参加者は9月に市内全域で実施される総合防災訓練において、アマチュア無線クラブ等から市防災対策本部へ報告された各地区の避難者総数、及び災害対策本部への参集職員数とする。

B: 10年間で市消防団の定員充足を目指し、目標(平成36年目標値800人はH26年現在の定数)を設定する。

C: 防犯灯のLED化等による環境整備、及び関係機関との連携強化を推進し、5年間で約10%の増加を見込む。

D: 交通事故統計の実績値より、5年間で約10%の減少を見込む。

E: 地域での相談・研修会を推進し、5年間で約10回の増加を見込む。

3 評価結果

施策の有効性評価	
<p>① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>※左記の理由</p> <p>子どもと高齢者の事故件数は、前年や目標値を大幅に下回る好実績となり、消費者相談等の開催回数も目標値を上回っている。防災訓練参加者数、消防団員数及び防犯対策に満足している市民割合は、目標値には届かなかったが、ほぼ例年並みの実績となったことから、総合して目標どおりと評価した。</p>
<p>② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>※左記の理由</p> <p>消防団員数は横ばいで維持しているが、近年特に団員確保が難しくなっている。防災訓練参加者数は、直近こそ横ばいであるが、5年前より1割程度増えている。</p> <p>子どもと高齢者の事故件数は減少しており、夜間の安全を確保する防犯灯のLED化の更新率も要綱の見直し等により向上している。消費者相談等の開設については身近に相談を受けられる体制が整備される等、施策としてはどちらかと言えば向上したと評価した。</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>消防団員の確保については、各市町村で苦心しており、ほとんどで条例定数を下回っている。本市の防災訓練参加者数（率）は、H27実績で35%程度であり、一律な比較は出来ないが、県内他市の平均20%を上回っている。</p> <p>子どもと高齢者の事故も甲斐・笛吹市平均の7割以下の発生件数となっており、消費相談窓口等の設置も県内では先行している。市町村別犯罪安全度（犯罪・窃盗・侵入）は同規模自治体より高い評価で、防犯に対する住民の不満傾向も低くなっている。</p>
<p>④ 住民の期待する成果水準との比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>防災・防犯体制の充実や交通安全対策の推進については、市民アンケートにおける重要視傾向の上位7位に入っており、市民の期待度は大きい。</p> <p>全国各地で発生している災害や凶悪犯罪、また交通事故等のニュース報道等が連日あり、市民の関心は高いと思われるが、全ての家庭や地域において備える行動には直結していない。</p> <p>防災リーダー等により積極的に取組む地域や市民も出始めているが、市や関係機関等が一体となって、全市民の備える行動に繋げていくことが必要である。</p>

4 まとめ

施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容		
施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
災害時の危険性を認識し、備えている市民アンケートの割合が減少	災害はいつ・どこで起きても不思議では無い事や、そのために平時から備える必要性の周知継続及び強化	○自治会長（自主防災会長）を防災に特化して補佐し、地域の防災対策や住民の防災力向上の牽引役になっていただく防災リーダーの養成（H25年～）を継続実施し、より多くの地域に配置していく。 ○H17年に作成した「防災パンフレット（想定される災害、地域や家庭で備える情報、指定避難所マップ）」を更新印刷し、全戸配布する。
消防団員の確保が困難	地域防災にかかせない消防団員の必要性の理解促進と併せ、時代に即応した組織体制や活動内容のあり方を検討	○消防団活動等に対する住民の理解促進と併せ、組織や活動内容等を見直すため、新旧正副団長等を委員とした検討会を開催し検討を進める。 （主な検討事項） ・消防団の必要性について市民への周知・啓発方法 ・日中の火災のみに対応する機能別消防団員の導入 ・消防団員の活動内容の軽減
高齢者等の消費者被害の増加	消費者相談、救済体制の充実	○身近なところで資格のある消費者相談窓口の設置と判断力が不十分となった高齢者等を対象に研修会を開催する。 ○いつでも有資格者の相談が受けられるよう、相談窓口開設日の拡充を図るべく、平成29年度に『市消費生活センター』を設置するための準備を進める。 ○他分野との連携による高齢者見守りネットワークを構築する。